

平成 20 年度 NPO 法人里山ネットワーク世屋 事業報告

年 月 日			内容	
H20	4	26	理事会	
	5	4	笹葺き民家完成セレモニー式典 飯尾理事長出席	
	25		平成 20 年度総会（平成 19 年度事業報告及び決算報告、平成 20 年度事業計画）	
	6	8	龍谷大学研修受入れ	
		15	宮津ふるさとの森を育てる協議会設立総会 奥敬一会員出席	
		16	宮津市エコツーリズム推進協議会 設立準備会議	
		21-22	キャロルの集い受入れ	
		28	宮津市エコツーリズム推進協議会設立総会 飯尾理事長出席	
		29	立命館大学 ぶーたん視察受入れ	
	7	8	宮津市エコツーリズム推進協議会 第 1 回運営委員会 事務局出席	
		23	宮津市エコツーリズム推進協議会 第 2 回運営委員会 事務局出席	
	8	6	宮津市エコツーリズム推進協議会 ガイド養成現地見 河嶋理事出席	
		21-24	京都学園大学インターン生受入れ	
		22	京都青少年ゆめネットワーク視察受入れ	
		23	丹後半島民家シンポジウム「民家が語る里山の価値」活動紹介 梅本悦理事	
		24	京都府立大学研修受入れ	
		30	世屋ふるさと共援組織 設立準備懇談会 事務局出席	
		9	1	朝日新聞にほんの里 100 選選考委員視察受入れ
			9	京都学園大学研修受入れ
			10	宮津市エコツーリズム推進協議会 第 3 回運営委員会 事務局出席
			13	世屋ふるさと共援組織 協定調印式 飯尾理事長出席
	13・15		NACS-J 里地調査講習会 河嶋理事・事務局出席	
		23	京都大学インターン受け入れ（11 月 29 日まで）	
		26	環境省視察受入れ 梅本理事対応	
	10	11	理事会	
		11	里地里山再生全国フォーラム in 越前 活動紹介 事務局	
		18-20	京都大学学生受入れ	
		28	世屋ふるさと共援組織 運営会議	
		31	京都府丹後広域振興局森林土木施設の管理等に関する協定書の調印	
	11	8	日興コーディアル証券ボランティア受入れ	
6		ぶーたんの雪囲い&忘年会		
12	1	深泥ヶ池厄除けちまき生産者との交流会に出席（笹の葉出荷 10 万枚）		
	15	宮津市エコツーリズム推進協議会 第 4 回運営委員会 事務局出席		
	24	世屋ふるさと共援組織 事業検討委員会 事務局出席		
H21	2	10-11	会員親睦会&活動を考える集い@川尻（宮津市江尻）18 名参加	
		13	宮津市エコツーリズム推進協議会 第 5 回運営委員会 事務局出席	
	24	世屋ふるさと共援組織 事業検討委員会 事務局出席		
	3	12	世屋ふるさと共援組織 先進地視察 事務局出席	
		16	宮津市エコツーリズム推進協議会 第 6 回運営委員会 事務局出席	
	21-27	NICE(日本国際ワークキャンプセンター)共催 田舎で働き隊！受入れ		
	22	ぶーたん雪囲い撤去		
	28	理事会		

① 放棄棚田の再生

2009 年春より米づくりを再開するために、放棄棚田周辺の草刈り、農道整備、畦直しの作業を行った。8 月 2 日には、地域を定期的に訪れている学生や他団体とともに総勢 40 名で放棄田の草刈りを行い、11 月 16 日には行政（京都府・宮津市）からの協力も得て京都府下から集まった約 30 名のボランティアとともに農道の拡幅作業を行った。この冬は雪も少なかったことから、3 月頭には地元農家の協力のもと畦・水路の整備作業を行った。

概要

② 棚田における無農薬米の栽培

2008 年 4 月から 1 1 月にかけて、棚田における農薬不使用米の栽培を行った。『棚田で米づくり』というプログラム名のもと、5 月 25 日は田植え、7 月 20 日は田んぼのいきもの探し、9 月 14 日は稲木たて、9 月 23 日に稲刈り・はさ掛け、1 1 月 16 日に稲木片付けのイベントを行った。

③ 丹後半島民家シンポジウムにおける展示

8 月 23 日、(独) 森林総合研究所等が主催により宮津市において開催されたシンポジウムに共催として参加し、会場前の展示ブースにおいて、“棚田を活かし守る”というテーマのもとにクイズやポスターにおいて棚田保全や農家と共同して行っている米の販路拡大に関する事業の PR を行った。



5/25 再生紙マルチを敷きながら田植



7/20 棚田周辺のいきもの探し



8/23 シンポジウムでの展示



9/14 稲木たて



9/23 稲刈りとはさ掛け



11/23 棚田再生のための農道整備

活動の効果
と課題

これまでは米づくりの過程のみにそったイベントを行ってきたが、いきものや水など棚田の環境を見直すプログラムを持つことで、「棚田はなぜ重要なのか?」「棚田を守るとはということなのか?」という米づくりとは違った視点からも棚田の意義を発信する良い機会となったと考える。

目標であった「棚田や米づくりに関心を持ち今後も関わってくれる賛同者を増やす事」に関しては、米づくりに関わる仲間の輪が広がっている実感はあるが、イベントだけでなく定期的に地域を訪れてくれる人々への情報提供、棚田オーナーのような形で米づくりに関わってもらえる人々の受け入れ体制づくりが来年度に重点的に行うべき内容だと考える。「棚田再生におけるノウハウや技術の蓄積」に関しては、スタッフが深く米づくりに関わる事で米づくりの過程だけでなく、農道や水の流れ、イノシシ対策に関しても経験と知識が得られたことは大きく、今後も地域住民と共いかに棚田の再生・保全を行っていくかを考えていくための良い機会となった。

平成 20 年度 NPO 法人里山ネットワーク世屋 農家共同事業報告

世屋のお米	松尾農家との共同事業。10月16日より発送開始。 30Kg*25袋入荷し、3月末時点で5Kg*119袋販売。
世屋地区運動会 のカレー販売	鹿カレーときのかカレーと共に世屋のお米をアピール。

平成 20 年度 NPO 法人里山ネットワーク世屋 地域資源発掘・伝承事業報告

概 要	`地域に受け継がれてきた自然との暮らし、をテーマに地域資源の調査を踏まえたプログラムを実施。	
1) 地域散策	2008年6月1日 高山・駒倉散策 参加者6名 2009年2月18日・22日 雪の森トレッキング	
2) 農から食 までプロジ ェクト	地域を訪れる若者と共に上世屋における遊休棚田を開墾、大豆・小豆・そばの栽培を行い、収穫した作物を用いて伝統料理を行った。農作業および作物の加工は地域住民の指導のもと行った。	
	日にち	参加人数
	6/15	打ち合わせ 地元2、地域外3、学生3
	6/30	草刈り・大豆の豆まき 地元2、学生3
	7/12	大豆畑の開墾 地元2、地域外3、学生4
	7/13	ウネたて・電柵取付け 大豆苗の植えかえ 地元2、学生4
	7/21	大豆畑の草とり・ 水やり、小豆畑の開墾 地元1、学生3
	7/27	水やり・小豆蒔き 地元1、学生2
	8/2	遊休棚田の草刈 地元6、地域外9、学生25
	8/21	小豆畑ネット張り 地元2、学生1
	8/24	水やり・草採り、 そば畑開墾 地元2、地域外2、学生11
	9/6	そば蒔き 地元2
	10/21	大豆収穫・干し 地元2、学生3
	11/2	小豆畑イノシシに荒らされる
	11/5	そば刈り・干し 地元2、学生3
	12/11	そば粉ひき、そば打ち 地元4、学生3
	12/12	豆腐作り 地元4、学生3